

産業イノベーション学科

学科のディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

<教育理念と教育目的>

世界経済のグローバル化、人口の急増、産業技術の高度化・複雑化が進む一方、国内における地域産業は高齢化・人口減少とともに衰退の局面にあり、地場産業の振興につながるはずのイノベーションが欠乏しています。本学科では、地場産業のうち、特に愛媛県の特徴でもある水産業・紙産業・ものづくり産業を教育の場とした3つのコースを配置し、農学または工学の専門基礎知識(科学知)とフィールドワーク(現場知)を通して専門知識の定着と、コースを越えた幅広い知識の獲得、さらにマネジメントやマーケティングなどの経済・経営の基礎を修得することにより、人と地域と産業を有機的に結び、新たな価値創造を生み出す素養を持つこと、すなわち地域産業の持続可能な発展に貢献することを教育・研究の目的としています。

<育成する人材像>

地域産業は地域振興の中核的存在として、これまで大きな役割を果たしてきました。近年のグローバル経済の中では、様々な産業分野において更なる改革や多面的な活動が求められています。このような経済の変革に対応するためには、各種産業分野においてイノベーションを持続的に行える人材の育成が急務となります。イノベーションを創出するためには、高い技術力のみならず発想力・経営力などの複合的な力を備え、新たな付加価値を生み出す人材が求められます。

本学科では、水産業・紙産業・ものづくり産業などの産業技術開発に必要な基礎理論と技術、新技術の普及に不可欠な経営とマネジメントに関する基礎知識を修得し、これらを融合することで、地域産業の発展に貢献できる専門性を持ったゼネラリスト(産業技術革新人材)を育成します。

<学習の到達目標>

(知識・実技)

1. 水産業・紙産業・ものづくり等の産業イノベーションに必要な基礎的知識、専門的知識を修得している。

(思考・判断)

2. 地域産業に生起する諸課題を広範な学問領域の学際的思考から把握することができ、総合的に判断して解決策を提案することができる。

(興味・関心・意欲・協働)

3. 水産業・紙産業・ものづくり等の産業の特徴、強み及び課題について、自ら積極的に関心をもち続けることができる。

4. 地域社会を新たな価値創造へと導こうとする意欲を有し、産業振興と地域活性化のために、水産業・紙産業・ものづくり等の産業に関する諸課題の解決に取り組むことができる。

(技能・表現)

5. 適切な調査・分析方法を用いて、産業イノベーションによる地域振興に必要な情報を収集・整理分析することができる。
6. 自らの考えを的確に表現し、他者との間で討論・対話することができる。

(リーダーシップ)

7. 水産業・紙産業・ものづくり等の産業に関する諸課題の解決へ向けて、サーバントリーダーシップを発揮することができる。

<卒業認定・学位授与>

社会共創学部の定める教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、かつ社会共創 GPA が卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定し学位(学士)を授与します。

学科のカリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

<教育課程の編成と教育内容>

本学科では、地域産業に関する専門的知識を基に、産業イノベーションによる地域振興を担える人材を育成するために、地域産業のベースとなる基礎専門知識を修得するとともに、実験・実習等により現場での実践基礎力及び課題解決能力を養います。

- ・産業イノベーションに関する基礎知識を幅広く学修し、水産業、紙産業、ものづくりの分野において必要な専門知識を順次に修得できるように、共通教育科目、基礎力育成科目群、文理融合思考力育成科目群、実践力育成科目群、専門力育成科目群を配置します。
- ・地域産業の発祥・成長・発展に関する基礎知識を学修した上で、学問的専門領域の視点から水産業、紙産業、ものづくりに関する知識や相互の課題について体系的に学ぶために、学科科目を配置します。
- ・履修コース科目の必修科目及び選択必修科目では、広範囲に応用可能な基礎科目を配置し、さらに基礎知識を確実に修得できるように実験・実習等を開講します。また、マネジメントやサービス等の企業運営に関する科目は他学科科目として、学部の枠を超えて主体的に専門性を広めていく選択肢として、他学部科目の履修を推奨します。
- ・自己デザイン科目として、他学科の専門力育成科目群、さらには、他学部との相互連携による専門教育科目を通じて、産業イノベーションに関わる自然科学・社会科学の双方を含んだ幅広い学問分野を学びます。
- ・実践力育成発展科目として、地域産業の課題解決に取り組むゼネラリストを育成するため、地域ステークホルダーと協働して地域産業の現状把握と実践力育成のための科目を開講します。

＜教育方法と成績評価＞

本学科は、1、2年次にコース横断授業科目、経済・経営系科目の知識を修得することにより、地域社会・産業を俯瞰できる基礎を身に付けるとともに、フィールド系科目を初年次から実施し、地域産業・企業・団体等の調査・問題抽出、課題解決のためのアプローチの手段を学び、キャリアデザインへの興味・関心を高めています。各コースにおける専門教育方法と成績評価は以下のとおりです。

- ・海洋生産科学コースでは、「生命科学」「環境科学」「社会科学」の3つの領域を通して、文理融合による領域を超えた、幅広い高度な海洋生産科学の専門的な知識と理論を学びます。そして、地域密着型の先端的研究施設である南予水産研究センター（愛媛県愛南町）と密接に連携しながら、南予地域を中心にしたフィールドワークやインターンシップ、実験・実習を系統的に行い、地域水産業の諸課題解決に導く実践的な能力を身に付けます。
- ・紙産業コースでは、製紙技術論、紙加工製品技術論等の「技術」に関する科目と、マネジメントやマーケティング等の「技術経営」に関する専門的科目を開講するとともに、紙や紙産業の現場を理解するために企業見学や実習を多く取り入れ、自らの「五感」を使った学習を通じて知識の実践力を身に付けます。
- ・ものづくりコースでは、設計、加工、回路設計、メカトロニクスなどの専門科目と各専門科目に対応した実験・実習・演習を開講することで理解度を高めることに加え、地域産業の技術課題の解決を試みる課題解決型学習教育や地域密着型体験学習を通じて設計・製造からマーケティングまでを一貫して考える実践的な技能を身に付けます。
- ・すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験、口頭試問、レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。
- ・卒業見込基準として、3年次後学期終了までに修得しなければならない単位数や授業科目及び社会共創GPAを定めています。

＜カリキュラムの評価＞

授業アンケート、卒業者アンケートなどの調査を実施し、学部共通科目における教育効果や科目間連携を検証します。さらに学修到達目標の達成状況についてディプロマ・サプリメントデータを活用し、コースカリキュラムやディプロマ・ポリシーの改善に努めます。

学科のアドミッション・ポリシー（AP：入学者受入の方針）

（知識）

1. 高等学校で履修する範囲の基礎学力又は水産業や工業などに関する知識を有している。

（思考・判断）

2. 目標を達成するために、産業に関わる様々な事象を多面的に考察し、論理的・総合的な考え方と判断ができる。

(興味・関心・意欲・協働)

3. 地域社会の持続可能な発展に関心を持ち、水産業・紙産業・ものづくり等の産業イノベーションに積極的に関わろうとする意欲と熱意を有している。
4. 様々な人々とグループワークをしながら、主体的に産業の問題の発見とその解決に取り組む姿勢を有している。

(技能・表現)

5. 他者の意見を理解し、自己の考えを口頭又は文書でわかりやすく表現できる。

<選考方法の趣旨>

Ⅱ. 産業イノベーション学科

【一般選抜 前期日程】

大学入学共通テストでは、高等学校で履修する主要教科・科目について教科書レベルの基礎的な知識を幅広く身につけているかをみるために、5教科5科目を課しています。また、個別学力検査等では、水産業、紙産業またはものづくりへの関心、思考、判断、意欲、協働、表現力等を総合的にみるために、面接を課しています。

【総合型選抜Ⅰ】

高等学校で履修する範囲の知識や思考、判断力をみるために、総合問題を課しています。また、関心、知識、思考、判断、意欲、協働、表現力等を総合的にみるために、面接とグループディスカッションを課しています。さらに、高校生活における活動歴等を踏まえ、意欲・能力・関心等をみるために、活動報告書、志望理由書等を課しています。